

# 金属光造形を医療分野に応用へ

## 産学官のフォーラムが第一回シンポジウム

「歯科用金属は、チタン製造からCAD/CAMで作る時代へと変わりつつある。日本発でさらに新しい可能性を拓いていきたい」(フォーラム会長の小田豊・東京歯科大学教授)。

新たな積層造形システムを医療・医療機器分野に応用させようと、産



挨拶する小田会長

学・官からなる「金属光造形複合加工医療機器フォーラム」が発足、10

月29日に東京で第一回シンポジウムを開催した。



熱心にセミナーを聴講

浦機械製作所(福井市)が開発した金属光造形複合加工機(商品名「ルメックス」)が可能にする、ラビッドプロトタイプ(積層造形)と高速ミールリングのハイブリッド技術を、医療や医療機器分野に応用させるべく立ち

上げたもので、現在は大学教授、研究者、金属粉末メーカー、歯科医師ら52名が参加している。

松浦機械製作所の東京フォーラムセンター(大田区)で開催した第一回シンポジウムには会員ら38名が出席、4つの講演とルメックスの説明、加工サンプルの見学などを通じ意見を交換した。

講演で最初に登壇した会長の小田教授は、歯科材料や歯科用CAD/CAMの進化などを概説。積層造形法の歯科

医療分野活用の実態に触れながら、金属積層造形の可能性に期待を寄せた。

小田会長は「松浦さんの機械を軸にして日本の医療分野の技術が高まることを目指している。インターネットを使いながら情報交換を密にしたい。シンポジウムも年3回くらいは開いていきたい」と語っていた。

次いで薬事法について、材料となる金属粉末について、金属光造形複合加工のメリットや普及状況についてそれぞれ講